

絵具の廃液、チューブなどの処理

環境への配慮

筆についた絵具を洗った廃液、使用後のチューブの処理など、みなさんはどうしているでしょうか。そのまま下水に流したり、一般ゴミと一緒に捨てていないでしょうか。今回は環境への配慮という視点から、絵具の廃液、使用済みチューブなどの適切な処理方法について述べてみます。

■水性絵具の洗浄廃液の処理

下水道が完備している地域では、そのまま流しても問題はありません。自治体の廃水処理施設で廃液に含まれる固形成分（顔料など）が汚泥として取り除かれ、その後汚泥は高温で焼却され、安全な状態にして廃棄処理場に埋められるからです。では、下水道が完備していない場合はどうしたらいいのでしょうか。廃液を一日程度そのままにしておく、水に溶けていた固形分が沈殿します。上澄みはそのまま流し、沈殿物は日干しにするなどして乾燥させ、固めて不燃ゴミとして捨てます。ゴミ焼却場でも廃水処理施設とよく似た処理をするため、沈殿物に含まれる有害な成分が自然界に流出することはほとんどないそうです。

■ブラシクリーナー廃液の処理

油絵具のブラシクリーナー廃液は、石油成分を含んでいるので下水には流せません。台所で使用しているゴミ用のビニール袋（小）を用意し、その中に新聞紙をくしゃくしゃにして入れます。それに廃液を入れ、口をしっかり閉め、可燃ゴミとして捨てます。また、ホルベインではありませんが、台所の油を固めて捨てるのと同じ原理で廃液を固める商品が発売されています。それを使ってもよいでしょう。

■油水混合のエマルションの廃液、化学薬品の処理


油水の混ざったエマルションは、紙でしっかり油分を拭き取って、紙

ごと可燃ゴミとして捨てます。版画などで使用する酸やアルカリ、重金属を含む化学薬品類は、下水道が完備している地域ならそのまま流して捨てます。下水設備がない場合は、pHを調整するなど適切な化学処理をして流さなければなりません。個人レベルでは無理なので、できるだけ大量の水で薄めて流すようにします。

■使用済みチューブの処理

キャップはプラスチックです。リサイクル法に従って、外してプラスチックとして捨てます。ホルベインの油絵具には、ノーマッキンチューブ（4号チューブなど）とパッキン仕様のチューブ（6号以上）があります。パッキンが付いているものは、針などでパッキンを外して処理します。パッキンは不燃ゴミです。チューブはカッターナイフなどで肩口に切り込みを入れ手で開きます。アルミチューブなので簡単に開くことができます。チューブに付着した絵具は、ペトリールなどをつけた筆で擦ればとれます。絵具を拭き取ったチューブは不燃ゴミとして捨てます。

■画用液を拭ったウエスやティッシュペーパーの処理

環境問題とは関係ありませんが、（引火性を示す製品）のマークが付いている画用液の中には、これらを用いて拭いたウエスやティッシュペーパーをそのまま放置しておく、酸化反応で高温になって燃え出すおそれのある品があります。自然発火を防ぐために、使用済みのウエスなどは水を入れたビニール袋に入れ、密閉して捨てるようにしてください。



ホルベイン 油絵具用 筆洗浄

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072 (985) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

holbein

ホルベイン絵具